

LINEで伝え、足で解決！ シャインマスカット栽培拡大への挑戦

会津農林事務所農業振興普及部

1 背景・ねらい

米価下落や資材高騰で
会津の多くの農家が
ピンチなんだって？

育苗ハウスなら、
たいていの農家が
持ってるよね



図1 育苗ハウス

うん。育苗ハウスを有効活用して、
園芸作物を栽培する方法があるよ

シャインマスカットだったら所得確保に
つなげやすいんじゃないかな

目標：シャインマスカットの新規作付けを増やす！
＋成園化するまでしっかり導き、収量と販売単価アップを達成する！

部会もないのにどうやって
技術指導しよう、、、

ブドウ栽培に不慣れな生産者には
タイムリーなアドバイスが必要だよ。

それ、LINEでフォローできそうじゃない？

2 活動内容

LINEが可能にした情報発信と支援



市町やJAの
窓口に設置、
県のHPに記載

図2 登録誘導チラシ

画像付きの
質問は病害虫の
同定が楽！

数時間以内に
担当者が返信！



図4 チャットを用いた指導

会津農林事務所農業振興普及部

台風第10号対策をお願いします。

令和6年8月26日（月）に気象庁から「令和6年 台風第10号に関する情報 第28号」が発表されました。台風第10号は日本の南を通過しながら北上し、28日頃に強風・大雨となる恐れがあります。

- 1 収量の確保
収穫期に入っているももやぶどう

図3 台風10号対策の周知

運用：令和3年～ ※県内初！
登録者数：69名

※主要な新規就農者全員が登録
情報発信に係るコスト：無料！

防霜対策、高温時のかん水や
病害虫防除の実施タイミングなど、
重要情報を迅速に共有（2～3回/月）。

ブドウの現地学習会の案内を通知。
栽培マニュアルもLINEで配布。

チャット機能で主要な栽培管理を指導でき、
過去の指導内容も振り返ることが可能！

一方、LINEではカバーできない部分が・・・

防除計画の具体化や育苗ハウスの形状に合わせた
定植指導が難しかったり、一律なアドバイスが課題となった。

LINEの弱点は足で解決！

①巡回でリアルアドバイス



図5 巡回の様子

ほ場へ直接出向き、定植方法や病虫害防除の提案など園地の状況に応じた個別支援を実施（10人 主要な時期は1回/週）。

営農指導員との密着型サポートはとても大事。

LINEで質問しつくせないやりとりを十分に行う。

②体験型現地検討会



図6 体験型現地検討会の様子

果樹研究所や市と連携し「見せる！」「やってみる！」「とことんギモンに応える！」現地検討会を開催。

もっと生産性を向上させるためのハイテク機器導入を提案。

3 活動成果

①利用者アンケートでLINEが高評価！

60歳以上はもちろん、世代を問わず活用されていた。

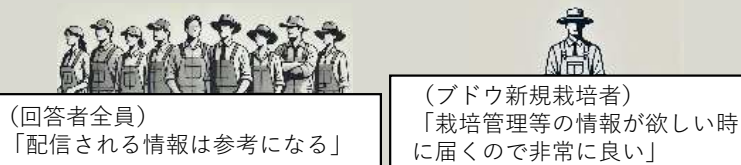


図7 アンケート回答者の声

台風が来る2～3日前に連絡が来ます。

病虫害についてよく質問してます。

図8 LINE利用者

②栽培戸数の増加：20名の農家が導入（R6）

③きめ細かなサポートにより、令和2年に定植した農家4名は、定植後4年で成園並みの収量に。販売単価も市場価格と同じ水準（1,600円/kg）まで向上！育苗ハウス一棟あたり15万円の売上を確保する農家が出現。

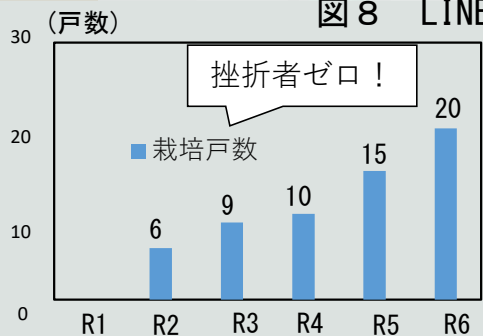


図9 ブドウの新規栽培戸数

育苗ハウスでもこんな綺麗な房がとれたぞ～



図10 収穫果

4 今後の活動・方向性

シャインマスカットの新規栽培戸数・面積が急増中。
→研究会の発足&JA会津よつばと連携し共選体制導入を検討！

定植後1～5年目と経験の幅が広がり、同じ対応はできない。
→引き続きLINEと個別巡回を組み合わせ、しっかりサポート！

高齢でLINEを活用しない農家が2名いる。
→タブレットで撮影した映像を見せながら現地指導！



図11 管理動画はタブレットに保存